東北大学大学院リーディングプログラム学生
「修了式」挨拶文 2018.3.28

東北大学学位プログラム推進機構リーディングプログラム部門長の静谷です。2017 年度の修了式にあたり，一言、お祝いの言葉を申し上げます。

本年度は、東北大学大学院リーディングプログラム、グローバル安全学トップリーダー育成プログラムにおいて２０名、マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラムにおいて５名の皆さんがそれぞれ修了となり、本日こうして皆さんを送り出す日が訪れたことを大変嬉しく思うとともに、厳しいプログラムをこなしてご自身を高めてきた皆さんに対する敬意と、皆さんが本学の学生であるという誇らしい気持ちが交錯しております。

すでに皆さんには昨日、学位記が授与されています。お気づきになっているとは思いますが、通常の学位記ではなく、特別な文章が添えてある学位記です。これは国際共同大学院プログラムの修了生についても同様です。このことは、近現代の学位制度の中で、実は見かけ以上に画期的なことです。

本年度、4 月に開催された認定式でリーディングプログラム部門長からご挨拶をさせていただいた中で、2017 年は我が国に学位の制度が導入されて 130 年目の節目の年であることをご紹介しました。

明治20年、1887年5月21日、勅令第13号として「学位令」が公布されたのですが、その第一条にはこう記載されています「学位は博士（はくし）及大博士（だいはくし）の二等とす」。つまり、博士を超える特別な博士を設けたことになります。ところが大博士は誰にも授与されることなく、11年後の明治31年、1898年の第二次学位令において、大博士の制度は廃止されました。

しかしながら皆さんは、特別な博士という意味で、先人たちが構想した大博士に対応づけられる現代の人々であると申し上げても過言ではありません。また同時に、そのような存在であることの社会的責任を自覚しながら、この先の人生をスタートさせなくてはならないことにもなりました。

どうか、その責任をむしろ誇りや底力に変えて、それぞれの分野で、世界のあらゆる場所で、指導的人材としての手腕を発揮されることを心から祈念いたします。そしてそれどころか、活躍し過ぎて、もう少し落ち着かせてから修了させればよかったかと、私どもを慌てさせてください。

その期待の言葉をもって、リーディングプログラム部門長からのお祝いの言葉とさせていただきます。

2018年3月28日
副機構長・リーディングプログラム部門長
総長特別補佐（教育改革担当）
静谷　啓樹